

福島第一原発 4号機の状況

福島原発 4号機の建屋内部、原発相が視察

細野豪志原発事故担当相は5月26日、東京電力福島第1原子力発電所4号機の原子炉建屋内部を視察した。東電が目指す廃炉の工程表では、来年から最初に4号機で燃料を取り出す計画。4号機のプールは福島第1原発で最も多い1535本の燃料を収めるが、建屋が傾いたり崩落したりする懸念が出ていた。

原発相は仮設階段を使って2階に上り、プールを補強するコンクリート壁を確認。最上階の5階では白いシートに覆われたプール脇で、東電社員による水位やゆがみの検査などを見て回った。

東電は同行とは別に4号機建屋の外を報道陣に公開した。

4号機はがれきの半分を撤去し、建屋から70～80メートル離れたところの放射線量は毎時80～100マイクロシーベルトと2～3月の半分以下になっていた。

隣の3号機ではがれきの撤去が進まず、海側に30メートルほど離れた地点でもバス車中で毎時約1300～1500マイクロシーベルトと依然高かった。

汚染水の放射性物質を取り除く新たな装置の基礎工事も始まっていた。

(5月26日日本経済新聞電子版記事抜粋)

○大臣コメント

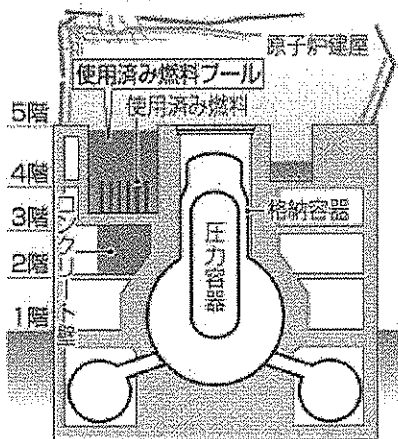
「(使用済み核燃料プール)の水平性や底部の補強の状況について健全性を確認した」
(5月26日日本経済新聞電子版)

「震度6強の地震でも4号機は健全性が維持されると分析している」
(5月26日日本経済新聞電子版)

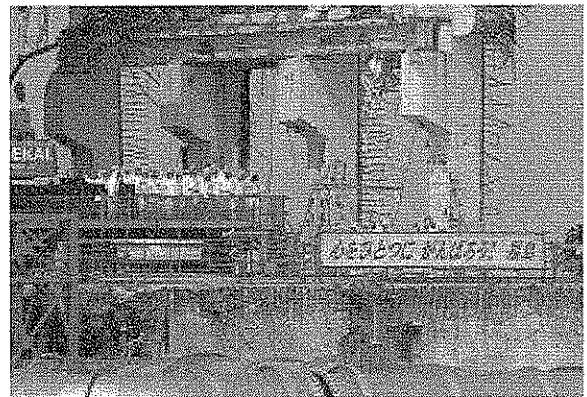
「(廃炉作業は)30～40年続けていかなければならない。どう人材を確保し、技術を伝承して新たなものを導入していくのが課題」
(5月26日日本経済新聞電子版)

「燃料取り出しの準備は着実に進んでいる。楽観的にならずに厳しく安全性を確認することが必要だ」
(5月26日読売オンライン)

福島第1原発4号機 断面図



(出典：河北新報電子版)



福島第1原発4号機原子炉建屋の5階部分を視察する細野原発相ら(26日午後、福島県大熊町)＝代表撮影

(出典：日本経済新聞電子版)

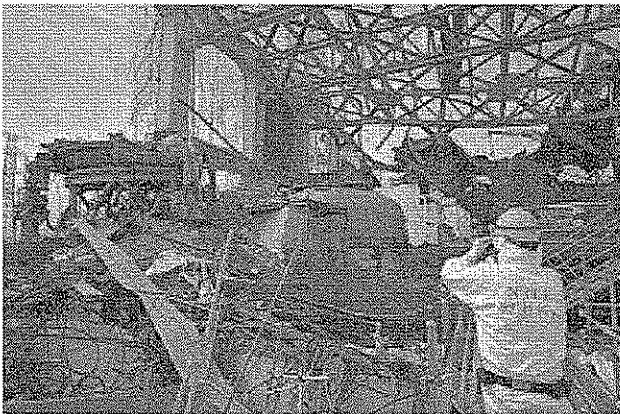
以下出典：日本経済新聞電子版



公開された福島第1原発4号機の5階オペレーションフロア(26日午後、福島県大熊町)=代表撮影



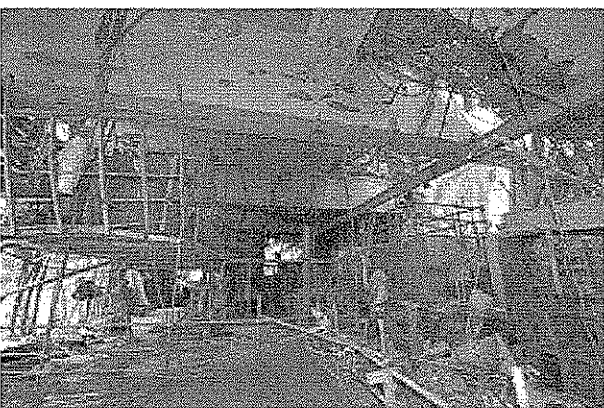
公開された福島第1原発4号機の5階オペレーションフロア。黄色い部分は原子炉格納容器のふた(26日午後、福島県大熊町)=代表撮影



福島第1原発4号機の5階オペレーションフロア。黄色い部分は原子炉格納容器のふた(26日午後、福島県大熊町)=代表撮影



高台から見た福島第1原発の4号機建屋(26日午後、福島県大熊町)=代表撮影



公開された福島第1原発4号機の建屋の内部(26日午後、福島県大熊町)=代表撮影



福島第1原発4号機の使用済み燃料プールを視察する細野原発相ら(26日午後、福島県大熊町)=代表撮影